

## 武庫川のカワラサイコ

高津一男\*

武庫川と天王寺川が合流する伊丹市西野 7 丁目と尼崎市西昆陽 4 丁目の境界付近に、兵庫県版レッドデータブック 2010 (植物・植物群落) においてCランク (県内において存続基盤が脆弱な種) に指定されているカワラサイコ (*Potentilla chinensis*) の自生地 (図1) がある。

カワラサイコは、日当たりのよい川原や砂地に生えるバラ科の多年草で、根茎は太く地表を這って広がる。茎は長さ 30~70cm になり、先の方は斜めに起き上がって花序をつける。花は直径 10mm 程度で黄色の 5 弁花、花期は 6 月~8 月である (写真1)。日本では本州、四国、九州に分布するが、生育環境である砂礫地や砂地が少なくなっているため、各地で減少の一途をたどっている。

伊丹市では、平成 26 年 3 月に『生物多様性いたみ戦略』を策定し、市の HP で公表しているが、戦略策定のための基礎調査として、兵庫県立大学名誉教授の服部



写真1 カワラサイコ

保先生にご指導いただく中で、平成 24 年度に大阪国際空港内の草地を含め、公園など 11 箇所 24 地点で植生調査を行った。カワラサイコがある当該箇所 (緯度: N34° 46.758' 経度: E135° 22.501') においても植生調査を実施した (写真2)。

武庫川の当該箇所にカワラサイコが生育していることは、今から 15 年程前、宝塚市自然保護協会の (故) 新家勝氏により『宝塚の自然』2000 第 15 号設立 25 周年記念増大号に詳しく掲載されており、「武庫川のカワラサイコ」付図とあわせて手元に残っている (写真3)。この中では宝塚市で 4 箇所、尼崎市で 2 箇所、西宮市で 5 箇所という報告がなされている。

また、新家氏が仁川合流付近でカワラサイコに訪花



図1 位置図



写真2 植生調査箇所

\*伊丹市 市民自治部環境政策室みどり公園課



写真3 宝塚の自然  
「武庫川のカワラサイコ」付図

する昆虫を調べた結果では、5月末から11月初めという開花時期に80種を超える昆虫がいたことが報告され、「カワラサイコは晩春から中秋に至る長期間、多くの吸蜜性の昆虫を養っており、武庫川の生物の豊富さに寄与している貴重な植物である。」とも述べられており、生物多様性の観点からも重要な植物だと言える。

本来、カワラサイコは川の氾濫によってできた河川敷や中洲を生育場所としてきたが、河床掘削や堤防整

備など治水対策が進む中で、堤防の天端などへと場所を移して生き延びてきた。この自生地も同様であり、管理車両の通行や人々が散策道として利用しているため、裸地化したところでうまく生育しているが、既にその周辺にはクズが茂り始めており、このまま放置するとクズが繁茂することでやがては消滅していく可能性がある。

伊丹市では生物多様性いたみ戦略において、カワラサイコを伊丹の貴重な生物リストのBランク、市内において消滅の危機が増大している種（生息・生育環境、自生地の保全が必要な種）と位置付け、伊丹市域に生育地の区域拡大を図っていきたいと考えている。具体的には、カワラサイコの保全対策を検討し、実施していく必要があるが、本市だけでは難しいと考えている。学識経験者の助言・指導、自然保護団体との連携、行政間の情報交換、そして何よりも必要なものは保全活動を継続していく市民ひとり一人の力であると思う。

最後に、行政施策紹介として、武庫川、そして生物多様性いたみ戦略に関係の深いカワラサイコを紹介する機会を与えていただいたことに感謝を申し上げますとともに、武庫川のカワラサイコ保全のため、多くの皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

